

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	みやざきけんりつみやざきおおみやこうとうがっこう				②所在都道府県	宮崎県
27～31	①学校名	宮崎県立宮崎大宮高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科	1048名
文科情報科	82	84	82		248	文科情報科	248名
						合計	1296名
⑥研究開発構想名	「オールみやざき」でグローバル・リーダーを育成する教育プログラムの研究開発						
⑦研究開発の概要	<p>グローバル・リーダーとして身につけさせたい3つの資質・能力として、</p> <p>①「グローバルな社会課題に対する問題意識」（知識・理解）</p> <p>②「国際社会で通用する汎用的能力」（技能・スキル）</p> <p>③「グローバルな社会課題を解決するための行動力・実践力」（態度・姿勢・価値観）</p> <p>を想定し、その育成を行う教育プログラムの研究開発。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>①目的 宮崎県内のグローバルに活躍する大学・企業・行政と連携し、地域にある国際的に関心の高い社会課題を、国内外で研究し解決策を考えることで、郷土に対する誇りと柔軟な国際感覚にあふれるグローバル・リーダーを育成する。</p> <p>②目標 グローバル・リーダーとして身につけさせたい3つの資質・能力を育成することで、「目標設定シート」に挙げた9つの「成果目標（アウトカム）」を達成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>①現状の分析 本校文科情報科はグローバル・リーダー育成を目的に設置された学科だが、「生徒の意識調査」では、グローバルな社会課題に対して興味・関心はあるものの、その課題を身近な地域の事柄と結びつけて考えたり、具体的な提案や行動をしたりしようとする生徒が少なく、また、海外大学へ留学や進学を考えている生徒も少なかった。そこで、国際理解・国際交流を単に「おもしろい、楽しそう」と感じるだけのレベルから、身近な地域の社会課題をグローバルな視点で考え、具体的な提案や行動ができるレベルへ向上させる必要がある。</p> <p>②研究開発の仮説</p> <p>研究開発Ⅰ「グローバルな社会課題に対する問題意識」（知識・理解）の育成 「課題研究」において地域と海外における探究活動を有機的に関連させて繰り返し行う。</p> <p>研究開発Ⅱ「国際社会で通用する汎用的能力」（技能・スキル）の育成 「課題研究以外の取組」において「課題研究」で必要とされる基礎的な思考やスキル（英語力も含む）を習得させる。</p> <p>研究開発Ⅲ「グローバルな社会課題を解決するための行動力・実践力」（態度・姿勢・価値観）の育成 「グローバル・リーダー育成に関する環境整備・教育課程以外の取組」において生徒による主体的・自治的な活動を行う「SGH生徒推進部」を設置する。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「課題研究」の研究成果を動画化し、HPやSNSで発信する。 ・SGH生徒推進部の活動内容を生徒が毎月HPで公開する。 ・SGH事業の活動を「文科情報科通信」において毎月HPで公開する。 ・SGH生徒研究発表会を関係者（企業・行政・大学等）や地域に向けて毎年実施する。 ・SGH研究成果報告会を県内外の関係者（企業・行政・大学等）や教育機関に毎年実施する。 					

⑧
-2
課題研究

(1) 課題研究内容

「郷土に対する誇りと柔軟な国際感覚にあふれる人材」の育成のため、本県の財産や課題を起点としてグローバルな視点で考えるために、「食と健康」をテーマに4つの観点から課題研究を行う。(研究開発が進む過程で改編の可能性あり)

観点	課題研究テーマ例
政策	口蹄疫や鳥インフルエンザ等への防疫
ビジネス	ハラールフードによる産業創造
健康・安全	遺伝子組み換え技術による機能性食品の是非
イノベーション	ミャンマーの「水問題」からイノベーションを学ぶ

(2) 実施方法・検証評価

①実施方法

名称	実施方法
探究Ⅰ	「課題研究の基礎」「グローバルイシュー概論」「グローバル・リーダー論/グローバルイシュー概論・各論」における講義・演習
探究Ⅱ	「食と健康」を中心テーマに上記の4つの観点から課題研究・ゼミナール活動
探究Ⅲ	英語論文の作成・研究成果の動画発信を行い、国内外の関係機関(県庁・企業・海外大学)に提言
海外現地研修1・2	ミャンマー・ベトナム・タイ・インドネシアでのフィールドワーク
短期留学	台湾の高校へ短期交換留学をし、「食と健康」について共同研究
海外研修	オーストラリアの高校・大学で「食と健康」をテーマにスタディーツアー

・ICT環境整備

WEB 会議システムを利用し、海外の高校や大学(サテライトオフィス)と結び、「課題研究」に関する講義・ディスカッション。デジタルポートフォリオの活用。

②検証評価

- ・自己評価(質問紙)・ポートフォリオ評価
- ・ルーブリックによるパフォーマンス評価(研究論文・プレゼンテーション等)

(3) 必要となる教育課程の特例等

なし

⑧
-3
上記以外

(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価

①研究開発の内容・実施方法

「国際社会で通用する汎用的能力」(技能・スキル)の育成 講義や演習など

探究基礎		グローバル英語	
	KJ法による合意形成(宿泊研修)	I	スピーチ・スキット・ディベート
	新聞比較によるメディアリテラシー		イングリッシュキャンプ(宿泊研修)
	ディベートによる討論	II	英語サマリー作成
		III	英文読解とディスカッション

②検証評価

- ・自己評価(質問紙)・グローバル英語はGTECも活用
- ・ルーブリックによるパフォーマンス評価(レポート・口頭発表等)

(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等

なし

(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の取組内容・実施方法

①SGH 生徒推進部による主体的・自治的活動

「活動体験ルーブリック」による自己評価・相互評価、ポートフォリオ評価で検証。

②留学推進体制の確立

オーストラリア州教育省と連携し、留学を身近に感じさせる海外研修。短期留学の実施。

③学校のグローバル化

SGH 事業の研究成果を普通科へ還元。国際バカロレア (IB) の授業研究。台湾やオーストラリアの交流校と人的交流。「アドバンスプレースメントテスト」を含めた大学入試研究。

⑨その他
特記事項